

のびごえ明朝 縦組み見本

蝉時雨せみしぐれの向こうから、声がした。「ねえ——、待ってよ！」振り返ると、陽炎かげろうの立つ坂道を、白い帽子が駆けてくる。追いついた彼女は、息を弾ませながら、川の方を指さした。ざわ~~~~。葉のあいだを風が渡り、雨上がりの光が細かく揺れた。「ほんとうに行くの!」「行くよ!! 今日を逃したら、きつと来年まで見られないもの」堤を下りると、夕立の名残が水面みなもに細い波紋を描いていた~~~~。濡れた石の匂い。遠くの踏切。自転車のベル。どれもが夏の終わりを知らせているようだった。ふたりは黙って、水際に浮かぶ小さな灯りを待った。やがて草むらの奥で、ひとつ、またひとつ、淡い光が明滅した。「見えた——」声は夜の入口へ、細く長く溶けていった。

あ  長音記号 U+30FC	静かに  HORIZONTAL BAR U+2015	ざわ  WAVE DASH U+301C
ふわ  FULLWIDTH TILDE U+FF5E	波紋  WAVY DASH U+3030	ねえ  !? 長音+約物合字 ccmp / calt

薄明^{はくめい}の空に、まだ星がひとつ残っていた。
葦原^{あしはら}を抜ける風が、水脈^{みお}をそっと揺らす。
「もうすぐ東雲^{しののめ}だね」と、彼女は言った。
遠い山際^{やまぎわ}から、鳥の声が細く響く。
泡沫^{うたかた}のような夜が、静かにほどけていった。

組版設定

のびごえ明朝 Regular。
本文14pt、行間2.1字、ルビは親文字の二分サイズで組んでいます。

本文中で確認

縦組み本文の流れの中で、約物や振り仮名の位置関係を確認できます。

??	???	!!	!!!	!!!!	!!!!!	?!	!?
??	???	!!	!!!	!!!!	!!!!!	?!	!?
??!	?!?	!??	!!?	!?!	?!!	!!??	??!?
??!	?!?	!??	!!?	!?!	?!!	!!??	??!?

!?	明朝 default	!?	斜体明朝 ss01	!?	ゴシック ss02	!?	斜体ゴシック ss03
----	---------------	----	--------------	----	--------------	----	----------------